

平成8年11月



子ども版「児童の権利に関する条約」と学校

筑波大学教授 下村 哲夫

「児童の権利に関する条約」が国内発効してから、もう二年が過ぎた。先ごろ政府は条約の規定に従い、国連・児童の権利委員会に第1回報告書を提出した。正文は英語で121ページという立派なものだが、内容は既存の法律や制度の解説が多く、問題の「いじめ」については1ページに満たない。報告書を市販する予定もないようで、マスコミにもほとんど報道されなかった。

ところで、条約第42条は、締約国に成人及び児童に対する条約の広報義務を課している。しかし、条約の政府訳は大人が読んでもわかりづらいものだから、子どもにとっては、大変難解なものであるといえる。そこで、各地で子ども版「児童の権利に関する条約」の刊行が始まった。

手もとに『児童の権利に関する条約』『子どもの権利』『子どもの権利って?』など、表現は少し違うが、東京都、三重県、横浜市、大阪市、川崎市、箕面市（大阪府）などのこの種の子どもの向きのパンフレットがある。東京都と三重県のものには私も作成に関わった。

大人でも難解な条約の内容を小学校低学年の子どもにもわかるようにしようというのだから大変だ。意見表明権を例にあげよう。なお、漢字は全て振り仮名付きだ。

- 「自分の考えをじゆうに言えます」 (東京)
 - 「自分のいけんをじゆうにいうことができます」 (三重)
 - 「じぶんできめるよ」(自分で考え、自分の意見を述べ、自分で行動する権利) (大阪)
 - 「自分の意見を、自由にいえます」 (川崎)
- 「じぶんできめるよ」とすっぱり言い切ってよいかどうかいささか気になるが、それぞれに表現の工夫がある。

どれも10ページそこそこのパンフレットだが、カラーの大きなカットが入っていて見るだけで楽しい。しかし、これだけの文章とカットだけでは、どういふことを言いたいのかよくわからない。当然、学校なり家庭なりで教師や親が説明を加えることが前提になっているのだろう。

家庭ではさておき、学校でこのパンフレットをどの時間に、だれが、どういうふうに出すかはこれからの課題である。小学校では学級活動の時間に担任教師がということになるだろうが、扱い方は当面教師の力量次第である。これからの学校教育は、この条約を踏まえて権利-義務という関係として新しく構成されることになる。その様な視点から、この条約を子どもたちにどう説明するかを考えていただきたい。

研究紹介

教育相談の推進に関する研究

—相談機関と学校との連携に視点を当てて—

広島市教育センター主任指導主事 松田 了二

年々、不登校やいじめ等の相談が増加しています。こうした相談には、その過程において学校との連携が大切だといわれていますが、実際には学校との連携が難しい状況がみられます。本研究では、相談機関と学校との連携の在り方について探りました。

連携することの意義

学校にとっては、次のような効果的な対応が期待できます。

- 専門的な助言や指導が受けられる
- 悩みを受容してもらい、対応にゆとりが生じる
- 相談機関と同一歩調で対応できる
- 子どもへの援助・指導の役割分担ができる

連携の具体的な方法

学校の視点から、連携の方法は次の5つのパターンに分けられます。

- 受容的：気持ちを受容してもらう
- 援助・指導的：子どもの見方・とらえ方やかわり方について指導を受ける
- 情報交換的：子どもの状態等について相互の意見交換をする
- 試行錯誤的：要因や背景等を共に考える
- 仲介的：相互の不信感を改善してもらう

図1に示すように、教育相談室の来所（面接）相談の事例で、学校と連携を行った方法は、情報交換的、援助・指導的、受容的の順となっています。

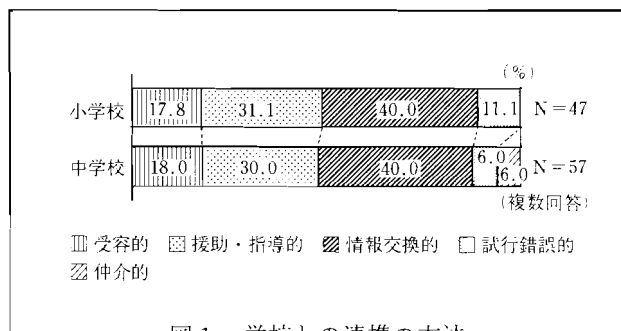


図1 学校との連携の方法

連携の程度（十分か否か）と相談結果

図2に示すように、連携が十分に行われた場合には、相談結果として「終了」（相談内容の課題が解決し、解消、改善する）の割合が高く、相談効果が表れています。一方、連携が行われなかったり、十分でなかったりした場合には、「終了」の割合が低く、さらに「中断」（相談者が1回か数回の面接で一方的に連絡を断つ）の割合が高くなり、相談効果が表れていない結果となっています。

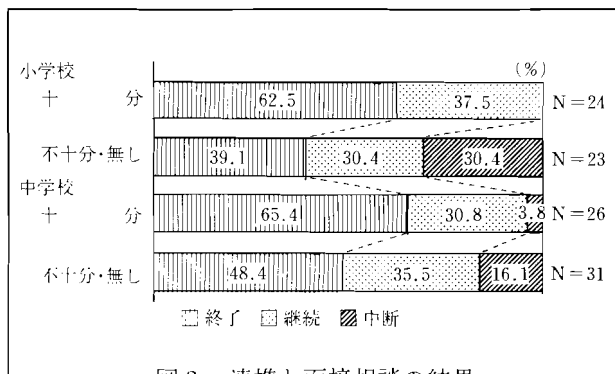


図2 連携と面接相談の結果

効果的な連携の在り方

連携を推進するためには、図3の流れのように、相談事例について、まずは相談機関と十分な情報交換を行い、次に、その事例についての見方・とらえ方やかわり方についてのアドバイスや指導を受ける。さらに、その過程についての情報交換を行い、お互いの役割を明らかにしていくことで、効果的な連携が可能となります。

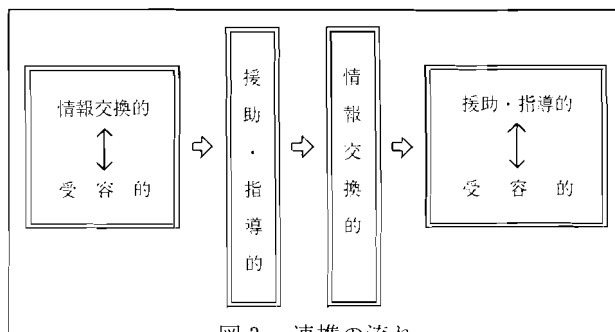


図3 連携の流れ

(平成8年度広島市教育センター研究紀要 第16号より)

研究紹介

中学校英語科のティーム・ティーチングにおける指導と評価に関する研究

—英語指導助手（AET）の評価にかかわる実践を通して—

広島市教育センター指導主事 松 脇 守 弥

中学校英語科において、英語指導助手（以下AET）と、日本人教師（以下JTE）とのティーム・ティーチング（以下TT）の実践が定着しつつあります。このような状況においては、評価についての工夫が一層必要となっています。その工夫の一つとして、AETが評価にかかわるティーム・エバリュエーティング（以下TE）が考えられます。本研究では、このTEについて探りました。

TEによる効果

授業中の観察やインタビューテスト等を実施する際に、TEの導入によりAET自身が本来身に付けている母国語としての英語の感覚で評価をすることが可能となります。また、図1のように、生徒の積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲が喚起され、英語についての関心や理解が高まります。

これらは、英語科の目標としている「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」につながっていくと考えられます。

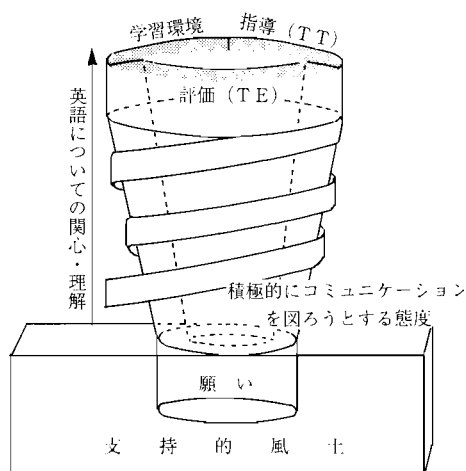


図1 英語科の指導と評価

TEを取り入れた指導例

①授業中での観察を進めるには

各単元の指導目標と評価規準の要素を作成する際、次のようなことに配慮します。

- 指導目標は、「積極的にコミュニケーションを

図ろうとする態度の育成」にかかわる部分について、言語活動が簡単に想起できるようにします。

- 評価規準の要素は、各単元の指導目標をもとに行う言語活動の中より、生徒が具体的に示す顕著な活動を要素とし、簡単に観察ができるようにします。

これらをもとに、あらかじめ決めていた生徒を中心に観察し、補助簿に記入します。

②インタビューテストを進めるには

実施する際には、次のように進めます。

- AETだけで個人面接を行います。
(一人、約3～5分程度)
- 英語を母国語としているAETのコミュニケーションの感覚で、個人用チェック票の各項目ごとに評価を行うとともに、その他気付いたことを記入します。
- チェック票の項目は、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の評価規準の要素を参考にして「話すこと」「聞くこと」を中心にして作成します。
- 既習の学習内容を中心に、AETが簡単な質問をし、明るい雰囲気でのコミュニケーションができるようにします。
- AETの発問に対し、理解できない生徒には、英語に対する嫌悪感を軽減させるために、最小限の日本語を併用します。

以上のようにTEを行うことにより、効果的な観点別の「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」等について評価できます。また、TEを多く実施し、その評価を生徒に還元すれば、生徒の英語学習に対する意識を高めることができるでしょう。

各学校において、AETとの相互理解を図りながらTEを取り入れた効果的な指導をしてみたいかがですか。

(平成8年度広島市教育センター研究紀要 第16号より)

取り入れてみましょう

- 学校図書館を利用した読みの指導
国語科教育（小・中）

今、情報をもとに自分なりの考えを創造しそれを発信していく姿勢が求められています。

そのためにはまず、自分にとって必要な情報を的確に読みとる力・読解力が大切です。読解力は楽しみながらたくさん読むことで身に付いていきます。

そこで、学校図書館を利用して読解から読書へと発展させる指導の工夫をしてみたいかがでしょう。

①教科書で習った単元のテーマにそって各自が本を選び、読書をする。②読みとった内容について、ブックトークをする。③感想を書き、読み合う。④テーマについてディベートをする。

これらの活動が、新たな好奇心を呼び起こし次なる読書への意欲を喚起していきます。

実践してみましょう

- 課題解決的な学習方法
音楽科教育（中）

教師主導の指導法から生徒が自主的に学習する活動への転換が求められ、先生方も努力されていることと思います。

授業時間の一部分から単元全体にわたって形態は様々ですが、発表の方法・表現する楽器の選択・練習の方法等を、約束した時間数の中で生徒が学習計画を立てて進めると効果があります。その際、グループ学習の形態をとることが多いのですが、機械的に分けたグループではなく、自分のやってみたい方法や内容等の目的別に分けたグループ構成の方がより一層効果が期待できます。

表現、鑑賞、また表現と鑑賞を一体にした学習など課題解決的な学習方法を取り入れ、生徒が自主的に生き生きと活動する授業の創造を図ってみましょう。

心がけてみましょう

- コミュニケーションの基本姿勢“SOUL”
障害児教育

ことばの発達に遅れのある子どもたちとのコミュニケーションを図るためのかかわり方として、“SOUL”と言われる基本姿勢があります。

これは、Silence, Observation, Understanding, Listening の頭文字をとったものです。

Silence: 子どもが自分から行動を始めるまで静かに見守ること

Observation: 子どもの能力や状態をよく知ること

Understanding: 子どもを深く理解すること

Listening: 子どものことばを十分傾聴すること

これらの姿勢に心がけることが、子どものコミュニケーション意欲を高めることとなります。

利用してみましょう

- 教室の視聴覚機器
視聴覚教育

高度情報化社会から高度情報通信社会に変容しつつある現在、授業で利用される視聴覚機器・機材がメディアの開発・普及に応じて様々に変わってきています。とりわけマルチメディアのコンピュータやハイビジョン等の視聴覚機器の進歩は著しいものがあります。

そこで、とにかく遅れまい、できたら先取りしたいと思うあまり、視聴覚教育の原点である児童生徒が目や音を輝かせる「よい授業」づくりのための視聴覚メディア選択を誤る可能性が出てきています。このような時、温故知新ではありませんが、今まで教室の隅であまり使われていない視聴覚機器を授業に利用してみませんか。学習指導のアイデアがきっと浮かぶと思います。そして、適切な視聴覚メディアの選択のヒントにもなると思います。

教育実践のアイデア



受講者の声

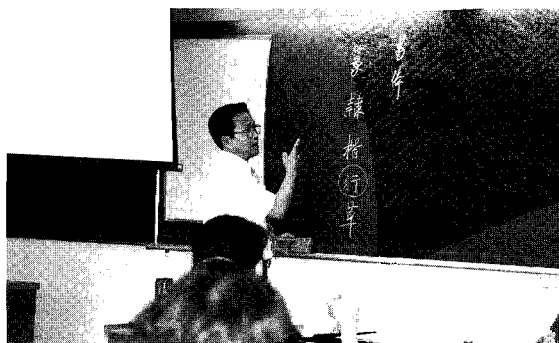
幼稚園教育実技講座（1組）



自然のままの樫の木や、いろいろな形・大きさの木片からイメージをわかせ、遊ぶ物や飾る物などを作ってみました。材料や用具の扱い方を確認でき、先生方の作品に刺激を受けて参考になりました。木のもつ温もりを改めて感じながら、楽しく研修を受けることができました。

広島市立亀崎幼稚園教諭 作間 和恵

中学校書写実技講座



毛筆書道に自信のない私ですが、書写の授業は好きです。この講座で「書けなくてもうまく教えられる」方法をたくさん習ったからです。

『徒然草』に曰く、「一芸に秀でようと思ったら未熟なうちから上手な人に交わって続けなさい。」

毎年受講して、力量をつけたいと思います。

広島市立祇園中学校教諭 寺家 栄子

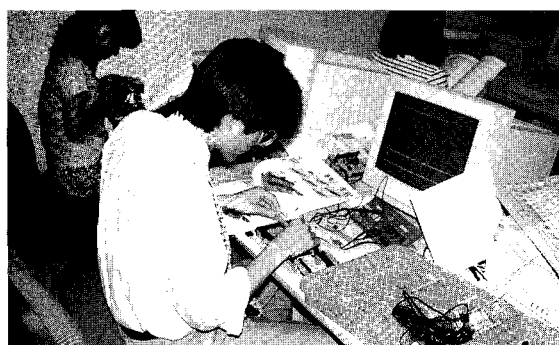
小学校音楽科指導講座



この講座で私は、緊張の中にも楽しさのある創作指導法を実技を交えながら次々と学びました。音選び、パターン化したリズム・メロディーを利用し、声・手拍子・楽器等を組み合わせるなどです。2学期から早速活用できそうで、とても満足感を覚えた講座でした。

広島市立落合東小学校教諭 遠藤 優子

コンピュータ講座



日頃、成績処理などでコンピュータを利用する機会が多いのですが、とりあえず必要のところからという自己流の使い方、系統立てて学んだことがありませんでした。この講座でそのよい機会を得ることができました。今後、学んだことを発展させ生かしていきたいと思います。

広島市立基町高等学校教諭 山野井 孝満

= 教育相談室から =

Q

おこたえします

A

読み書きが苦手な子ども

Q 小学校5年生の子どものことです。A児は日常の会話はまったく不自由なく話したり聞いたりしているのですが、読み書きは苦手です。うまくできません。「もっと練習しようね」「がんばってやろうね」と声掛けをするのですが、効果が見られません。近ごろは、気が散りやすく学習意欲もなくなっているようです。どのように指導すればよいのでしょうか。

A A児は、目や耳といった感覚器官には問題はないようですが、聞き取って理解することや文字や図形をとらえることなど、見たり聞いたりした情報を処理する能力に偏りがあるようです。例えば、ひらがなの「わ」と「れ」などよく似た文字の混同や、「こ」と「い」の区別に困難さがあったり、へんやつくりが反対になることや、文字が逆さまになったりするような状況は見られないでしょうか。このような子どもには、次のような対応が必要です。

○ 子どもの状態を知り、理解する

どうしてできないのかと原因を見つけ出すことのみでは状態の改善になりにくいものです。また、やる気がないからと責めても、落ち込んでしまってかえって状態を悪くしてしまうこともあります。A児の実際の学習面でのつまずきの様子はどうなのか、友達関係はどうなのかなど、詳しく把握し理解することが必要です。

○ 自信を失わせない

取り組んでいても自信がもてないことが多いので自信を失わせないことが大切です。得意なことを見つけて認めたり、自分なりのやり方を探させたりします。学習の過程で得意なことを課題に取り入れ、学習への意欲や自信をもたせるようにします。

○ 環境を整える

一対一での話では分かるのに、みんなと一緒に話では分かっていないこともあります。これは、周りの音などに影響されていることもあります。子どもにとってできるだけ、刺激の少ない環境を設定することが大切です。教師の発問や課題の説明ははっきりとして、できるだけ分かりやすく示し、過剰な声掛けを避けるようにします。教室の掲示など刺激になりやすいものは避け、気の散りやすい環境にならない工夫をします。

○ 読みの練習をする

グループで読んだり二人で読んだりするなど、人数や読み方に変化をもたせて興味を持続させるようにします。読みにくい漢字や間違いやすい箇所には印をつけておき、ゆっくり、はっきり読む練習をするようにします。個別指導の時間も必要です。指導したあとは、「ゆっくりよめたね」「はっきりよめたね」と必ずほめて、読むことに慣れるよう指導法を工夫することが大切です。

○ 文字の細部に注意を向けさせる

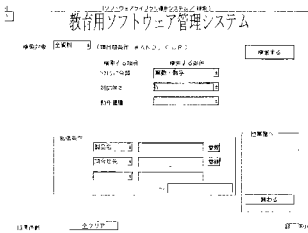
視覚認知に課題が見られる場合には、文字の細部に注目させることで、聴覚に働きかけてことばによる文字のイメージ化を図るようにします。「とめ」「はね」「はらい」の部分に朱色で印をつけ、注意しながら書く練習をするようにします。ひらがなの文字の場合は、形を分かりやすいことばでイメージさせるようにします。

A児に理解できる具体的な手立てで、学習に意欲をもたせ、できた喜びを一緒に味わっていきます。

広島市教育センター 教育相談室 223-4152
いじめ110番 223-4420
教育相談室(分室) 264-0422

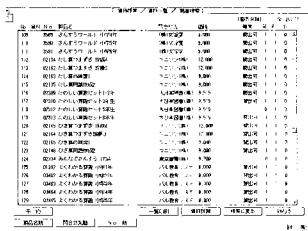
教育用ソフトウェアライブラリの紹介 (2)

教育用ソフトウェアライブラリでは、ソフトウェアに関する情報をMS-Windows上のデータベースシステム「ILIS」で管理しています。ここでは、「ILIS」で教育用ソフトウェアを検索する様子をご紹介します。



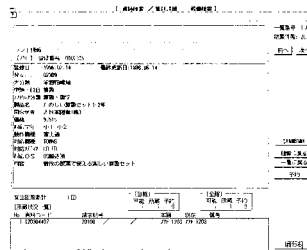
① 検索条件入力画面

検索したいソフトウェアの教科・対応学年・分類等の条件を入力し、検索を開始します。日本語で入力できます。



② 検索結果表示画面

検索した結果を一覧表形式で表示します。貸出可の表示されているものは試用可能です。



③ 検索結果詳細画面

一覧表の中から、動作機種、内容などのさらに詳しい情報が表示されます。試用したいソフトウェアの登録番号を受付に届けます。



④ 市立図書館蔵書検索

なお、「ILIS」とは別に、広島市立図書館と教育センターを電話回線で結んで、蔵書検索を行うこともできます。

新規購入図書を紹介

今年度新規に購入した教育関係図書の一部を紹介します。図書資料室に配架しておりますので、ご活用ください。

- 『書名』 編著者名(発行所名)
- 『日本の教育(全6巻)』市川昭午(教育開発研究所)
 - 『新・創造への教育1〜3』カール・R・ロージャズ(岩崎学術出版社)
 - 『新しい開発教育のすすめ方』ユネスコ(古今書院)
 - 『五日制の学校』伊藤正則(ニー書房)
 - 『情報化社会と教育のアイデンティティ』海老原治善ほか(エイデル研究所)
 - 『法律の目で学校をみる』下村哲夫(ぎょうせい)
 - 『子どもを守る防災教育・30の提案』震源地発・防災教育研究会(明治図書)
 - 『新しい補助簿の作り方・使い方』石田恒好(図書文化社)
 - 『情報能力育成の国語科教育』尾木和英(三省堂)
 - 『社会認識を育てる授業の創造』長谷川正(東洋館出版社)
 - 『算数科の評価と支援(1〜6年)』小島宏ほか(教育出版)
 - 『物理がおもしろい!』ガリレオ工房(日本評論社)
 - 『授業のネタ 音楽1』吉田孝(日本書籍)

- 『書名』 編著者名(発行所名)
- 『造形遊びのヒント38』宮坂元裕ほか(サクラクレパス出版部)
 - 『新版男女共学家庭科を創る』柳田真澄(澄芸図書)
 - 『中学校保健体育科指導細案1〜3』山川岩之助ほか(明治図書)
 - 『インターネットで英語教育』岩村圭南(アルク)
 - 『小学校道徳指導事例集—すぐれた資料・すぐれた指導—』瀬戸真(第一法規)
 - 『学級係活動の指導方法』岡村二郎(明治図書)
 - 『マルチメディアの教育利用と学習指導』坂元昂ほか(日本教育新聞社)
 - 『いじめ世界』の子どもたち。深谷和子(金子書房)
 - 『図説生活科選書(全5巻)』栗岩英雄(ぎょうせい)
 - 『保育実践のヒント』村田保太郎(ひかりのくに)
 - 『LDとは何か』日本LD学会(日本文化科学社)
 - 『生涯学習を始めよう』山本恒夫(実務教育出版)

図書資料室利用案内

- 開室時間 月〜金 9:00〜17:00
- 個人貸出 3冊まで/2週間以内
- 団体貸出 10冊まで/3週間以内

図書資料室からのお願い

- 研究物等の資料は閲覧のみで、貸出しは行っておりません。
- 多くの方に利用いただけるよう返却期日をお守りください。

教育センターひろば

平成8年度教育研究

教育センターでは、指導主事が継続的に教育研究を行っています。今年度取り組んでいる研究を紹介します。また、研究を進めるに当たっては次の先生方に研究協力員をお願いしています。

平成8年度 教育研究

研究領域 (担当者)	研究主題	研究協力員名 (所属学校)
障害児教育 (中尾秀行)	精神発達に遅滞がある児童の「見通し行動」を育てる指導に関する研究	国信 潤 (千田小学校) 太田 知哉 (毘沙門台小学校)
教育工学 (神津住男)	児童の情報活用能力を育てるコンピュータ活用に関する研究	中島 秀男 (段原小学校) 林 哲生 (原小学校)
性教育 (越智文嗣) (中山千恵) (前田憲社)	広島市における子どもの性に関する意識の調査研究	迫井 賢治 (神崎小学校) 柳原ひとみ (菅実小学校) 清水 勲 (井口小学校) 高森 弘之 (戸坂城山小学校) 鳴戸 裕子 (安佐中学校) 廣澤 正次 (長東中学校) 大前 清子 (宇品中学校) 福田 清子 (高陽中学校)
国語科教育 (森下幸子)	中学校国語科における確かで豊かな読みの力を育てる指導法に関する研究	吉川 美子 (温品中学校) 高島三枝子 (己斐上中学校)
図画工作科教育 (福原正明)	図画工作科における主体的な鑑賞態度を育てる学習指導法に関する研究	出来谷祐治 (比治山小学校) 丸谷 英司 (宇品東小学校)
国際理解教育 (松脇守弥)	小学校における国際理解教育の指導に関する研究	石井 裕一 (仁保小学校) 野澤 久美 (宇品中学校)
生徒指導 (松田了二)	児童生徒の規範意識に関する研究	三吉 勝彦 (安小学校) 植木 一郎 (三入中学校)
教育相談 (三原裕隆)	児童生徒の心の居場所となる学級づくりを図る援助・指導の在り方	佐和真由美 (千田小学校) 中司 博之 (城南中学校)
教育経営 (吉竹邦昭) (松浦俊雄) (井坂雅浩)	豊かな学力を育む教育環境の創造に関する実践的研究	稲垣 幸一 (竹屋小学校) 高本 正子 (幡町小学校) 丸岡 泰司 (日浦小学校) 渡部 浩 (中広中学校) 古谷 学 (井口中学校) 久都内文治 (三入中学校) 高橋 幸宏 (広島工業高等学校) 中堀 恵 (広島商業高等学校)

また、政令指定都市の各教育研究所との共同研究も行っています。

指定都市教育研究所 連盟・共同研究 (木村正信) (尾形慎治)	子どもの社会認識を探る (調査研究)
---------------------------------------	--------------------

題字 広島市立仁保中学校校長 益永 瑞夫
表紙絵 広島市立城山中学校教頭 堀田 誠治

広島市教育センター教育研究発表大会

教育研究発表大会を、9月6日(金)に行いました。約100名ものご参加をいただき、誠にありがとうございました。

来年度は、さらに充実した大会を目指していきたいと思っております。



教員長期研修生 (平成8年10月～平成9年3月)

今年度後期は次の5名の先生方が、教育センターにて、研修を進めておられます。

- 社会科教育：原 徹 教諭 (深川小学校)
- 家庭科教育：中川 昭江教諭 (井口台小学校)
- 教育工学：前田 真理教諭 (吉島東小学校)
- 特別活動：薄 秀行教諭 (長東中学校)
- 幼稚園教育：財満由美子教諭 (亀崎幼稚園)

広島市立学校教育研究生 (平成8年9月～11月)

今年度は次の17名の先生方が、教育センター及び在勤校にて、研究を進めておられます。

平成8年度 広島市立学校教育研究生

校種	研究部門	名前	所属学校
小 学 校	国語科教育	隅田 加代子	安北小学校
	算数科教育	田鍋 慎二	日浦小学校
	理科教育	河野 秀二	尾長小学校
	生活科教育	高山 幸子	己斐上小学校
	音楽科教育	中居 淳子	矢野小学校
	体育科教育	森 伸二	職町小学校
	家庭科教育	柘 磨洋美	草津小学校
	生徒指導	寺本 達志	牛田小学校
	教育工学	平野 政英	原小学校
	理科教育	橋本 裕治	井口台中学校
中 学 校	美術科教育	野崎 倫子	五日市中学校
	外国語(英語)科教育	藤村 和彦	温品中学校
	教育相談	斎藤 太	中広中学校
	障害児教育	前田 篤男	瀬野川中学校
	保健管理	上田 幸子	国泰寺中学校
	地理歴史科教育	谷田 増幸	安佐北高等学校
	幼稚園	幼稚園教育	高野 まり子

編集後記

実りの秋を迎えました。今回の所報も、先生方の教育実践充実の一助となれば幸いです。